

田中彫刻記

でんちゅうちょうこき

第二十二話 ～田中の執念～

作 ©いとうたかし



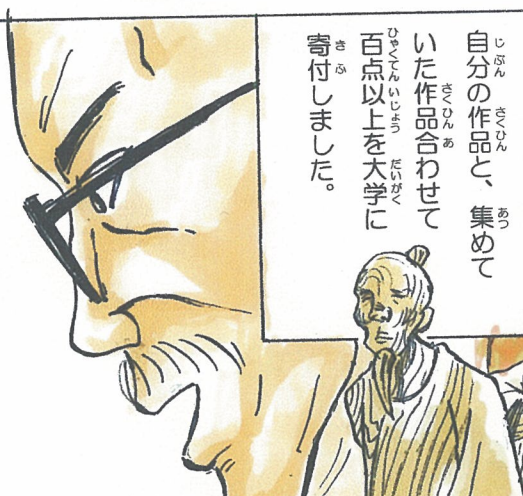
昭和27年、田中は東京芸術大学の教授を辞めました。



自分の作品と、集めていた作品合わせて百点以上を大学に寄付しました。



彫刻の道を志す学生に見せてやってくたさい…

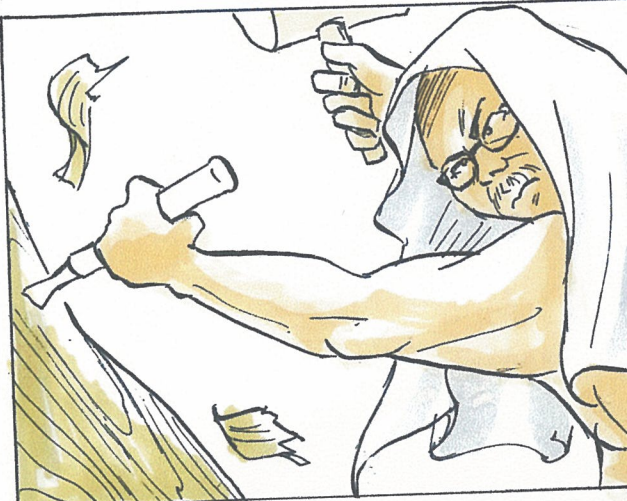


そのような中、鏡獅子のモデル六代目尾上菊五郎が亡くなりました。共に制作をしていた田中は、残念でなりませんでした。



菊五郎さん…わしが生きているうちに、何としても完成させるよ…

長年途絶えていた鏡獅子の制作に再び取りかかりました。





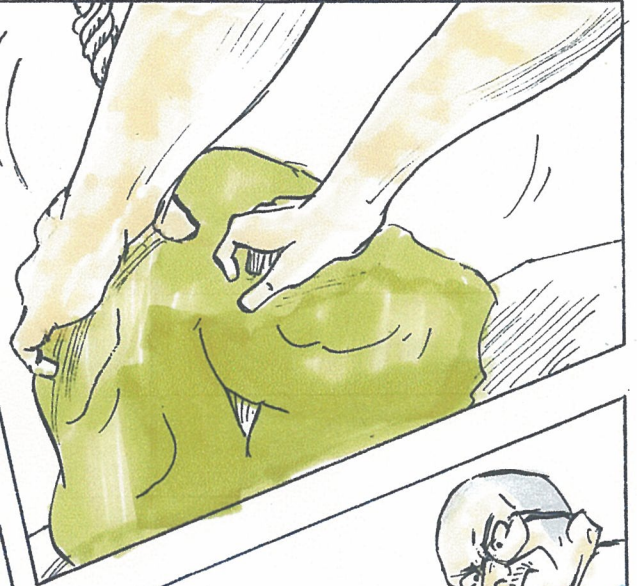
ある晩、田中は目の前にある像の出来具合がどうしても気に入りません。



なぜ何故だ…形に納得がいかな



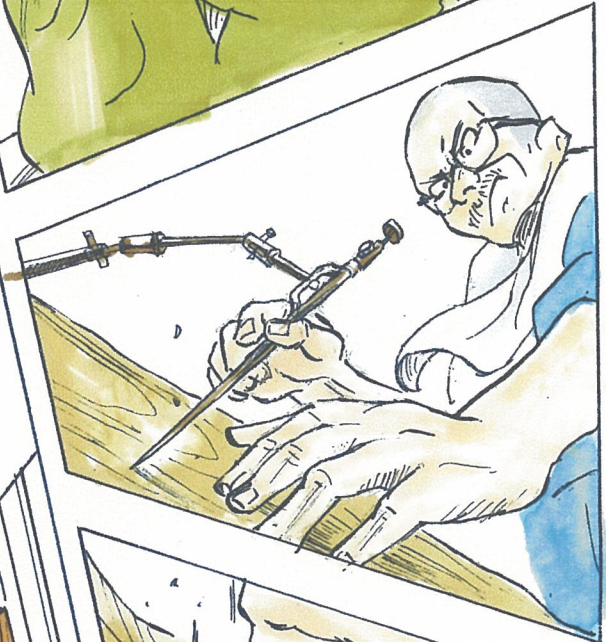
もう一度やりなおそう



木が足りない…



つなぎ合わせて作るう…



田中は、大木にはしごをかけ、一心に彫り刻んでいきました。

